



公民館

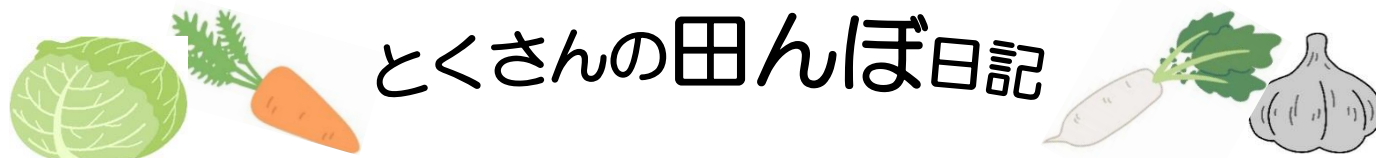
関係人口を増やす

町内の学校へ行くと、子どもの数が想像以上に減っているのが分かります。青谷小が161人、青谷中が69人だということです。そんな中でのOBの会話は、「本当に減ったなあ・・・」「私たちの頃は同級生だけで〇人いたのに・・・」

でも、人口減は子どもや親の責任ではなく、全国的な課題です。

そこで、考え方を大きく変えて、「人口」ではなく「関係人口」を増やすことを考えてはどうかと思いました。関係人口とは、地域外に拠点を持ちながらも、地域や地域の人と継続的に関わる第3の人口、つまり

- ・その地域が好きで頻繁に行き来する人
- ・地域内にふるさとがある人
- ・過去に住んでいた・働いていた人
- ・その地域に強い思い入れがあり、地域づくりに参加したい人等です。人口増がいいけれど、「いざという時に頼れる人を増やす」ことに力を入れるのがよいと思います。



とくさんの田んぼ日記

米づくり開始！

米の値段が高いですね。

そこで、単純に「自分で米づくりはできないものか・・・」と考え、知り合いの米づくりの手伝いを始めました。素人でどのくらい米ができるかやってみます。だから、今月からはしばらく畑日記は「田んぼ日記」にします。

第1日目、田植えからスタートと思っていましたが、種を蒔いて苗床をつくることからでした。最初から苗のわけはないので当然ですが・・・。作業開始。最初は大粒の土を均一に敷き詰め、その上に種(籾)を蒔き、上にまた土を敷き詰めるという作業でした。水を十分にかけてシートで覆い、約1か月置いてちょうどいい大きさにします。

今回は根気がいりますが、体力はさほどいりませんでした。次回はトラクターを運転して、耕した体験を書きます。



籾に土を均等に掛けて1枚終了。これを30回繰り返す

シリーズ 知っていましたが、青谷のこと？ 青谷ようこそ館の雰囲気が変わった・・・

先月号にも書きましたが、青谷ようこそ館の指定管理者が「あおや未来づくり協議会」（梶田康広代表）に代わり、雰囲気がぐんと明るくなりました。梶田さんに伺いました。

◎きっかけは？

元々青谷のまちを盛り上げるためにどこかで店を開きたいと考えていたところ、ようこそ館が指定管理者を募集していると聞き、地元の人にも勧められたので応募しました。

◎どんなものを売っている？

地元の人が作った新鮮な野菜を中心に、ジビエの燻製、花の苗、I LOVE あおや 37メンバーズ作成のTシャツやグッズ、パン、ノンアル甘酒等です。

◎因みに、野菜を売り出すにはどうしたら？

最初登録（会費なし）し、野菜名と値段、氏名を書いた値札に納品書を添えて持って来るだけです。値段は自分で決め、15%を引いた額が生産者さんの収入になります。

◎何人くらい登録している？

20人ほどです。青谷のまちづくりになるし、小遣い稼ぎにもなるのでお勧めです。

◎食べ物・飲み物は？

今のところアイスクリームとコーヒーだけですが、今後は他の飲食店と連携するなどして、食べる物を提供できたらと思っています。

◎今後の方向性は？

「集まって楽しむ」というポリシーで、イベントの企画やアルコールの提供等もしていきたいと思っています。

◎最後にひと言

青谷を盛り上げるためにやっていることなので、多くの人に来ていただきたいし、野菜をどんどん持ってきてほしいと思います。

◎ありがとうございました。みんなで町を盛り上げましょう。私も小遣い稼ぎに野菜を出します！



青谷ようこそ館の看板も新しくなった

おわりに

米の値段は今後どうなるのでしょうか・・・。田んぼ日記にあるように、私は米づくり（の手伝い）を始めたのですが、よく考えてみると、米の値段に関わらず、「自分の食べる米は自分で作る」というのが、最も食料安全保障につながるのではないかと思います。

「喉元過ぎれば熱さ忘れる」で、野菜でも値段が高い時には作ればよかったと思うのですが、安定してくると作ろうと思わなくなります。それではだめなので、米づくりは続けようと思っています。（今のところは・・・）